

2018年度



未来をつくる

Minatomirai-Honcho Elementary School  
横浜市立みなとみらい本町小学校



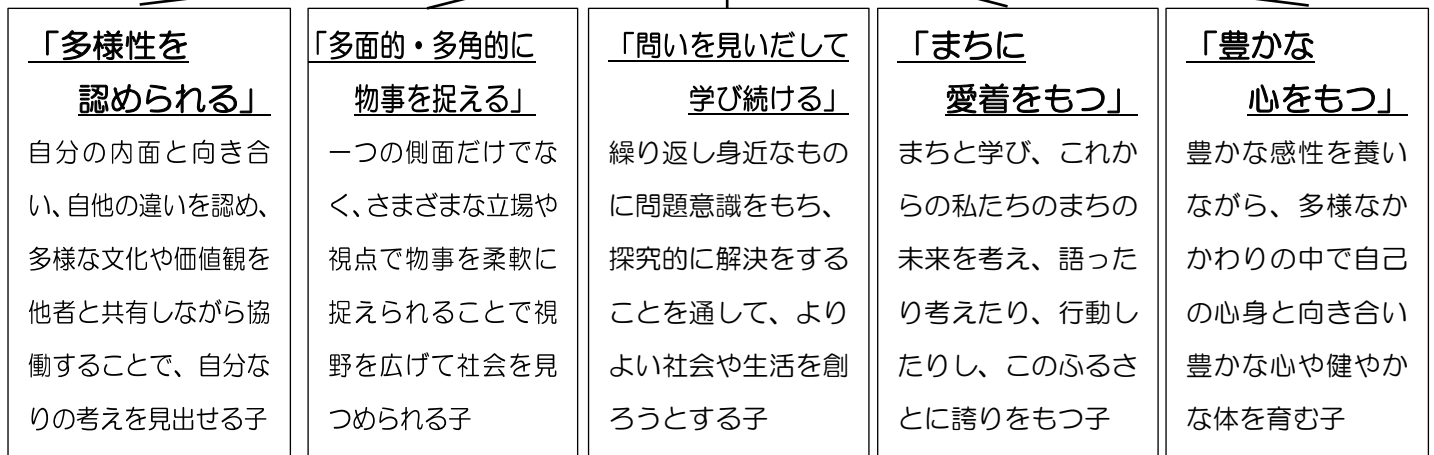
## 学校の歴史

1863年に開港し、港とともに発展してきた横浜。その中心地に、横浜市第一高等小学校として本町小学校が開校しました。それから約120年。港湾部の新しいまちづくりとしてスタートした「みなとみらい21計画」。着工から36年が経過し、居住人口約9000人、就労人口約10万5000人、観光客約7900万人のまちに発展してきました。

歴史ある本町小学校から分離・独立し、新しいまち「みなとみらい」に、2018年4月「みなとみらい本町小学校」が開校しました。社会課題を地域（人・もの）と連携し、社会参画をしながら解決しようとする、持続可能な社会を担う子どもの育成をめざしています。

## 学校教育目標

### 「みな」と「みらい」を創る子





## ESD/SDGs って？



### なぜ「持続可能な開発のための教育（ESD）」なの？

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

2017年3月に公示された小学校学習指導要領において、全体の内容に係る前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科においても、関連する内容が盛り込まれています。そこで、みなとみらい本町小学校では、環境、平和や人権等のESDの対象となる様々な課題への取組をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学際的かつ総合的に取り組むこととしました。

### 持続可能な開発目標(SDGs)とは？

“2030年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を追求しよう”

大胆かつ新しい「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が2015年9月に国連総会で採択されました。そこに盛り込まれているのが、世界を変えるための17の目標「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」。

途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月から実施が始まっています。

みなとみらい本町小学校では「SDGsの達成に向けて、自分たちはどんなことができるのか。」を、子どもたちの発達段階に合わせて、地域の課題と関連付けて取り組んでいます。学校や地域など身近な課題解決の先に、SDGsの達成があると考えたからです。このような活動を通して、子どもたちに、社会の一員として主体的に判断して社会に参画しようとする力や、自分たちの生活をよりよくするために行動しようとする力を育てることにもつながると考えています。



\*\*\*関連文献\*\*\*

◇文部科学省 <http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>

◇国連広報センター <http://www.unic.or.jp>



## 学年・学級の取り組み

まちを実際に歩いて気付いたことや学習の中で疑問に思ったことから、クラスごとに課題を設定しました。自分たちのまちや生活がよりよくなるよう、課題解決に向けて取り組んできたことを紹介します。

### 学習室



つたえて あそんで みんななかよし にこにこたい!



「学習室にたくさんの方が遊びに来てほしい!」「もっとたくさん友達を増やしたい!」という子どもたちの強い思いから始まった「にこにこ隊!」。水祭りや小中交流会、みなとみらいを語る会、学習発表会とたくさんの活動を通して、その想いをみんなに伝えることができました。1月からは、中休みにボーリング大会を企画しました。学習室にたくさんの交流級の友達が来てくれて、みんなで一緒に遊ぶことでクラス中に「にこにこ」の笑顔があふれていました。

学習室の想いが学校中に伝わって、休み時間に自然とたくさんの友達が遊びに来てくれるようになりました。「一緒にあそぼー!」と元気よく声をかけてくれる友達、「ボーリングやってみない?」と友達を誘い合う姿も見られるようになったことは、とても嬉しい変化です。「友達が増えた!」「一緒に遊べて楽しい!」と、学習室だけではなく、他のクラスの友達の行動や心を動かすことができました。



### 1-1

入学式で待ってるよ!~幼保小交流~



「入学式をお花いっぱいでおかえたい」と始まった活動。年長さんを学校に招待しようと近隣の保育園に声をかけました。初めて出会った年長さんは、初めての小学校、初めての自分たち1年生に不安そうな表情でした。このままでは、いけないと「まずは友達になろう」と仲良くなれそうな遊びタイムを考えました。仲良くなるために、好きなものを聞き、それをもとに次の交流へと繋げていきました。「みなとみらいを語る会」では、上級生や保護者の方にアドバイスをもらい、学校クイズの内容を検討したり、表現方法を工夫したりすることができました。最終的には、4回の交流をし、学校たんけんやランドセル体験をしてもらい、入学することが楽しみになってもらえたようです。この学習を通して、1年前の自分の姿を思い出し、いろんなことができるようになったことを実感することができました。2年生になって、お兄さん・お姉さんらしくできるような姿を期待しています。

### 1-2

お花いっぱい大作戦パート2~お花で笑顔も咲かせよう~



春から育てていたお花が大きく育たなかった…今度こそ!きれいなお花を育てて笑顔いっぱいの学校にしたい!きれいなお花を育てるためには、良い土づくりが大切ということに気付いた子どもたち。まずは、卵の殻、コーヒー、バナナの皮を肥料にするという話を専門家から伺い、手作りの肥料を作りました。

食べ物が肥料になるということを知った子どもたちは、次に給食の残飯を利用した肥料づくりに挑戦。資源循環局の方より、残飯が見えなくなるのは微生物の働きだということ学びました。さらに、腐葉土づくりに挑戦しました。環境創造局の方からは、自然環境の中での植物、動物、微生物などのかかわりを学びました。こうして土づくりを見直して育てたパンジーは、廊下や教室など学校のいたるところできれいな花を咲かせました。笑顔いっぱいの学校にしたい!身の回りの人や自然や社会に目を向け、みんなの幸せな未来を考える人になってほしいと思っています。



## 2-1

### みなとみらいをせせんいっばいのまちにしよう!



学校のそばの公園たんけんから始まった「まちたんけん」の学習。これまで、高島中央公園で遊ぶ時にもコンクリートタイルの場所で遊ぶことの多かった子どもたちですが、横浜市役所みどりアップ推進課の方に緑の大切さを教えてもらい、このまちに自然を増やすプロジェクトを開始しました。日本丸メモリアルパーク、新高島駅前通路、高島中央公園、ポピンズナーサリーみなとみらい（保育園）、子どもたちが暮らす各マンションなどにお花のプランターを運び込んで、当番制でお世話をしました。また、臨港パークの花壇への植栽や、みなとみらい秋まつりでのチューリップの植え付けもしました。まちの人に喜ばれて、まちに笑顔を増やすことができた子どもたち。前よりも自然が大好きになりました。



## 2-2

### みなとみらいのまちのためにできること



住んでいるみなとみらいの街についての疑問の中で、一番多く挙がったのが「なぜ工事をたくさんしているのだろう」「何かできることはないかな」と話し合い、「工事の人も、まちの人も『みなとみらいのまちをよくしていこう』と思うポスターを作ろう」ということになりました。「みなとみらいをきれいなまちに」「ゴミがないまちにしよう」など、一人ひとりが街に対するメッセージを記したポスターを作成し、京浜急行本社の囲いに貼りました。多くの子が「きれいなまちにしたい」という思いがあったことから、子どもたちに身近な高島中央公園をきれいにすることを目的としました。ゴミ拾い活動を通して、ゴミを減らしたいという思いから、看板やポスターを設置したり、朝会やお昼の放送で全校に呼びかけたりしました。2つの活動から「みなとみらいのまちをよりよくしていきたい」という思いが強まりました。



## 3-1

### 元気パワーアップ大作戦



いつも元気いっばいの3年1組。「体も心も元気で、気持ちよく生活できること」が大切だと考え、自分たちがやりたいこと・できることを考えてきました。自分たちだけではなく、学校全体そしてまちも元気にしたいという思いから、アンケートで多くの人考える「元気」について調査したことをもとに、語る会ではいくつかの案を提案しました。そこで、いただいたご意見をもとに話し合い、みんなが元気でいられるためのメニュー作りをすることになりました。自分たちでどんな食材がいいか調べたり、栄養職員の渡辺先生に話を聞いたりしながら、自分たちのオリジナルメニュー作りを進めています。それぞれの食材にはそれぞれのよさがあり、いろいろな食品をとることが大切だと気付くことができました。

## 3-2

### みどりでつながる しぜんいっばいのまち



「みなとみらいのまちは自然が少ない」という印象からまちの自然を調べました。調べていると空き地にはたくさんの草が生えていたり、街路樹が植わっていたりと思ったよりも自然を多く感じました。しかし、自分たちの考える自然とは違ったようです。舞岡公園で里山の自然について教えてもらい、自然とは「昔の人が作り、守り、育ててきたもの」というように考えるようになりました。しかし、みなとみらいは新しいまちなので、里山のような昔はありません。「だったら、自分たちが昔の人になればいい」「今の自然を守って未来につなげていく」と考えました。その思いが里山を守ってきた人の思いとつながりました。うつくしい港町横濱を作る会の方と一緒に清掃活動をしたり、ごみ拾いアプリ「ピリカ」の代表の方に話を聞いたりして、まちをきれいにすることが、みなとみらいの自然を守ることと考えました。臨港パークに桜の植樹をさせてもらえることにもなりました。この思いを未来につなげていきます。

## 4-1

### 高島水際線公園プロジェクト



「高島水際線公園ってどこ？」から始まった活動。魚やエビ・カニなどの生き物が豊かに生息していること、景色がきれいな場所であること、という公園のよさにふれ、子どもたちは「もっと多くの人によさを知ってもらいたい」「よさを守ってもらいたい」との思いを強くもちました。ところが、利用者の方から「静かな環境が残されていることが水際線公園のよさである」との意見も。この矛盾に、「地域にお住まいの方のご意見を集める」とこととし、アンケートにご協力をお願いしました。子どもたちは様々な立場や視点があることに気付くことができました。子どもたちのリーフレットを通して、多くの方に公園のよさを守り続けてほしいです。



## 4-2

### 紙すき JAPAN~未来を守るリサイクル~



「ここでは牛乳パックをリサイクルして、トイレトーパーにしているんだ。」社会科見学で行ったリサイクル工場の方の一言に驚きの声があがったのがきっかけになり、紙すきに挑戦しました。目的はリサイクルの大切さを伝えるため！自分たちで牛乳パックからしおりやうちわを作り、外国人観光客や年長さんに渡しました。「渡す相手がいないものをあげてもゴミになるだけじゃない？」という言葉から相手が本当に欲しいものを知ろうとインタビューに行きました。1年間の活動を通して、色画用紙や裏紙なども「まだ使えるかも」と他のことに再利用したり相手の立場に立って考えたり、協力して活動したりする力がつきました。



## 5-1

### めざせ Beautiful Ocean! ~Everybody smile 大作戦~



臨港パークにある潮入の池。ここにたくさんのごみが溜まっていることに課題をもった5年1組は、みなとみらいの海の環境を守るための活動を行いました。NPO 法人海さくらの方から「海のごみの約8割は街からやってくる」と聞いた子どもたち。海をきれいにするためには、まずは街のごみを減らさないといけない！ということで、まちのごみ拾いの活動を続けてきました。さらに、多くの人に海の現状について知ってもらいたいという思いをもち、秋まつりや本町フェスティバルなど地域の行事にや横浜駅での啓発運動などに参加し、CMやプレゼンテーションで海の環境を守る活動を呼びかけました。自分たちの思いを発信することが、みなとみらいの街をよりよく変えていく一歩になるのだと実感することができました。

## 5-2

### みんなで協力 減らせる災害 ~ずっと笑顔を守るため~



街探検をして、みなとみらいの防災や減災のための街作りに気がついた子どもたち。海拔表示があったり、災害用スピーカーがあったり。わからなかったことを横浜みなとみらい21、みなとみらい熱供給、東京ガスの方々に質問をし、調べたことを防災マップにまとめました。防災マップ完成後、ご覧になった方々からの「もっと伝えたい情報をしぼるといいよ」というアドバイスをもとに、一番に伝えたいことは何か考えながら減災ムービーを作成しました。活動を重ねるにつれて、一方的に発信するのではなく、相手が必要としていることは何かと考える姿や相手のことを思うことが共助につながると考える姿も見られました。最後に、これまでの学びの集大成として地域住民に地震への備えの大切さが伝わるプレゼンに挑戦しました。





## 6-1

### 「みなとみらい」の未来を考える～24人の思いをまちへ～

6年1組が考える「みなとみらい」の未来は

まちに住むひと、働いているひと、訪れるひと、大人も子ども「みんなが楽しめるまち」。



さまざまな人と関わることを通して「まち」への思いを高めています。多様な考えと出合うことで迷いながらも、一人ひとりが学びを深め、まちの一員として、みなとみらい本町小学校の代表として24人で活動を創り上げています。

自分たちの思いを形にすること、人に伝えることの難しさを感じ、試行錯誤を重ねました。この経験が日常生活や他教科での学習につながっています。総合的な学習の時間を通して、「自分の思いを伝える」ことの面白さを感じることができました。



## 6-2

### 未来へつなげSDGs!



みなとみらい本町小学校、最初の卒業生。自分たちで学校を創り、自分たちの学校を創っていききたい。そんな思いから学習がスタートしました。学校教育目標にある、「持続可能性」って何のことなのか。

そこから子どもたちはSDGsについて調べ始めました。「環境」、

「人との関わり」、「誰もが幸せ」。そんな学校を創っていくために

6年2組では思いを壁面にしていきたいと考えました。専門家に話を聞いたり各学年の取組をインタビューしたりして、みなとみらい本町小第一期生としてのみなとみらい本町SDG図の作成に臨みました。



## 学校の取り組み



## 人権集会

### 「世界の食料問題」～FAO駐日連絡事務所長 シフリ・チャールズ・ポリコ氏～

12月10日（月）、人権集会において特別講演「世界の食料問題」が開催されました。

「みなさんは、給食を残さず食べていますか？」と突然問題提起され、子どもたちの目が真剣になりました。「世界には十分な食料があるのに、世界全体の9人に1人が十分に食べることができない」という話を聞き、驚いていました。その理由の一つに「食べるために作られた食べ物の3分の1が捨てられている」でした。残飯はもったいないのはもちろんですが、捨てられるとたくさんの温熱効果ガスが出て台風や干ばつ、洪水などを引き起こす原因にもなることもお話しくださいました。講演後の児童代表からの、「自分が幸せであることを実感するとともに、僕は9人に1人の人のことを考えられる自分になりたい」という言葉が印象的でした。



私たちは みんな地球に住んでいる  
地球には たくさんの課題がある  
2030年 地球を支えているのは  
今の子どもたちだ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

## 学年・学級の取り組み

まちを実際に歩いて気付いたことや学習の中で疑問に思ったことから、クラスごとに課題を設定しました。自分たちのまちや生活がよりよくなるよう、課題解決に向けて取り組んできたことを紹介します。

### 学習室



つたえて あそんで みんななかよし にこにこたい!



「学習室にたくさんの人が遊びに来てほしい!」「もっとたくさん友達を増やしたい!」という子どもたちの強い思いから始まった「にこにこ隊!」。水祭りや小中交流会、みなとみらいを語る会、学習発表会とたくさんの活動を通して、その想いをみんなに伝えることができました。1月からは、中休みにボーリング大会を企画しました。学習室にたくさんの交流級の友達が来てくれて、みんなで一緒に遊ぶことでクラス中に「にこにこ」の笑顔があふれていました。

学習室の想いが学校中に伝わって、休み時間に自然とたくさんの友達が遊びに来てくれるようになりました。「一緒にあそぼー!」と元気よく声をかけてくれる友達、「ボーリングやってみない?」と友達を誘い合う姿も見られるようになったことは、とても嬉しい変化です。「友達が増えた!」「一緒に遊べて楽しい!」と、学習室だけではなく、他のクラスの友達の行動や心を動かすことができました。



### 1-1

入学式で待ってるよ!~幼保小交流~



「入学式をお花いっぱいでおかえたい」と始まった活動。年長さんを学校に招待しようと近隣の保育園に声をかけました。初めて出会った年長さんは、初めての小学校、初めての自分たち1年生に不安そうな表情でした。このままでは、いけないと「まずは友達になろう」と仲良くなれそうな遊びタイムを考えました。仲良くなるために、好きなものを聞き、それをもとに次の交流へと繋げていきました。「みなとみらいを語る会」では、上級生や保護者の方にアドバイスをもらい、学校クイズの内容を検討したり、表現方法を工夫したりすることができました。最終的には、4回の交流をし、学校たんけんやランドセル体験をしてもらい、入学することが楽しみになってもらえたようです。この学習を通して、1年前の自分の姿を思い出し、いろんなことができるようになったことを実感することができました。2年生になって、お兄さん・お姉さんらしくできるような姿を期待しています。

### 1-2

お花いっぱい大作戦パート2~お花で笑顔も咲かせよう~



春から育てていたお花が大きく育たなかった…今度こそ!きれいなお花を育てて笑顔いっぱいの学校にしたい!きれいなお花を育てるためには、良い土づくりが大切ということに気付いた子どもたち。まずは、卵の殻、コーヒー、バナナの皮を肥料にするという話を専門家から伺い、手作りの肥料を作りました。

食べ物肥料になるということを知った子どもたちは、次に給食の残飯を利用した肥料づくりに挑戦。資源循環局の方より、残飯が見えなくなるのは微生物の働きだということ学びました。さらに、腐葉土づくりに挑戦しました。環境創造局の方からは、自然環境の中での植物、動物、微生物などのかかわりを学びました。こうして土づくりを見直して育てたパンジーは、廊下や教室など学校のいたるところできれいな花を咲かせました。笑顔いっぱいの学校にしたい!身の回りの人や自然や社会に目を向け、みんなの幸せな未来を考える人になってほしいと思っています。



## 2-1

### みなとみらいをせせんいっばいのまちにしよう!



学校のそばの公園たんけんから始まった「まちたんけん」の学習。これまで、高島中央公園で遊ぶ時にもコンクリートタイルの場所で遊ぶことの多かった子どもたちですが、横浜市役所みどりアップ推進課の方に緑の大切さを教えてもらい、このまちに自然を増やすプロジェクトを開始しました。日本丸メモリアルパーク、新高島駅前通路、高島中央公園、ポピンズナーサリーみなとみらい（保育園）、子どもたちが暮らす各マンションなどにお花のプランターを運び込んで、当番制でお世話をしました。また、臨港パークの花壇への植栽や、みなとみらい秋まつりでのチューリップの植え付けもしました。まちの人に喜ばれて、まちに笑顔を増やすことができた子どもたち。前よりも自然が大好きになりました。



## 2-2

### みなとみらいのまちのためにできること



住んでいるみなとみらいの街についての疑問の中で、一番多く挙がったのが「なぜ工事をたくさんしているのだろう」「何かできることはないかな」と話し合い、「工事の人も、まちの人も『みなとみらいのまちをよくしていこう』と思うポスターを作ろう」ということになりました。「みなとみらいをきれいなまちに」「ゴミがないまちにしよう」など、一人ひとりが街に対するメッセージを記したポスターを作成し、京浜急行本社の囲いに貼りました。多くの子が「きれいなまちにしたい」という思いがあったことから、子どもたちに身近な高島中央公園をきれいにすることを目的としました。ゴミ拾い活動を通して、ゴミを減らしたいという思いから、看板やポスターを設置したり、朝会やお昼の放送で全校に呼びかけたりしました。2つの活動から「みなとみらいのまちをよりよくしていきたい」という思いが強まりました。



## 3-1

### 元気パワーアップ大作戦



いつも元気いっばいの3年1組。「体も心も元気で、気持ちよく生活できること」が大切だと考え、自分たちがやりたいこと・できることを考えてきました。自分たちだけではなく、学校全体そしてまちも元気にしたいという思いから、アンケートで多くの人考える「元気」について調査したことをもとに、語る会ではいくつかの案を提案しました。そこで、いただいたご意見をもとに話し合い、みんなが元気でいられるためのメニュー作りをすることになりました。自分たちでどんな食材がいいか調べたり、栄養職員の渡辺先生に話を聞いたりしながら、自分たちのオリジナルメニュー作りを進めています。それぞれの食材にはそれぞれのよさがあり、いろいろな食品をとることが大切だと気付くことができました。

## 3-2

### みどりでつながる しぜんいっばいのまち



「みなとみらいのまちは自然が少ない」という印象からまちの自然を調べました。調べていると空き地にはたくさんの草が生えていたり、街路樹が植わっていたりと思ったよりも自然を多く感じました。しかし、自分たちの考える自然とは違ったようです。舞岡公園で里山の自然について教えてもらい、自然とは「昔の人が作り、守り、育ててきたもの」というように考えるようになりました。しかし、みなとみらいは新しいまちなので、里山のような昔はありません。「だったら、自分たちが昔の人になればいい」「今の自然を守って未来につなげていく」と考えました。その思いが里山を守ってきた人の思いとつながりました。うつくしい港町横濱を作る会の方と一緒に清掃活動をしたり、ごみ拾いアプリ「ピリカ」の代表の方に話を聞いたりして、まちをきれいにすることが、みなとみらいの自然を守ることと考えました。臨港パークに桜の植樹をさせてもらえることにもなりました。この思いを未来につなげていきます。

## 4-1

### 高島水際線公園プロジェクト



「高島水際線公園ってどこ？」から始まった活動。魚やエビ・カニなどの生き物が豊かに生息していること、景色がきれいな場所であること、という公園のよさにふれ、子どもたちは「もっと多くの人によさを知ってもらいたい」「よさを守ってもらいたい」との思いを強くもちました。ところが、利用者の方から「静かな環境が残されていることが水際線公園のよさである」との意見も。この矛盾に、「地域にお住まいの方のご意見を集める」とこととし、アンケートにご協力をお願いしました。子どもたちは様々な立場や視点があることに気付くことができました。子どもたちのリーフレットを通して、多くの方に公園のよさを守り続けてほしいです。



## 4-2

### 紙すき JAPAN~未来を守るリサイクル~



「ここでは牛乳パックをリサイクルして、トイレトーパーにしているんだ。」社会科見学で行ったリサイクル工場の方の一言に驚きの声があがったのがきっかけになり、紙すきに挑戦しました。目的はリサイクルの大切さを伝えるため！自分たちで牛乳パックからしおりやうちわを作り、外国人観光客や年長さんに渡しました。「渡す相手がいないものをあげてもゴミになるだけじゃない？」という言葉から相手が本当に欲しいものを知ろうとインタビューに行きました。1年間の活動を通して、色画用紙や裏紙なども「まだ使えるかも」と他のことに再利用したり相手の立場に立って考えたり、協力して活動したりする力がつきました。



## 5-1

### めざせ Beautiful Ocean! ~Everybody smile 大作戦~



臨港パークにある潮入の池。ここにたくさんのごみが溜まっていることに課題をもった5年1組は、みなとみらいの海の環境を守るための活動を行いました。NPO 法人海さくらの方から「海のごみの約8割は街からやってくる」と聞いた子どもたち。海をきれいにするためには、まずは街のごみを減らさないといけない！ということで、まちのごみ拾いの活動を続けてきました。さらに、多くの人に海の現状について知ってもらいたいという思いをもち、秋まつりや本町フェスティバルなど地域の行事にや横浜駅での啓発運動などに参加し、CMやプレゼンテーションで海の環境を守る活動を呼びかけました。自分たちの思いを発信することが、みなとみらいの街をよりよく変えていく一歩になるのだと実感することができました。

## 5-2

### みんなで協力 減らせる災害 ~ずっと笑顔を守るため~



街探検をして、みなとみらいの防災や減災のための街作りに気がついた子どもたち。海拔表示があったり、災害用スピーカーがあったり。わからなかったことを横浜みなとみらい21、みなとみらい熱供給、東京ガスの方々に質問をし、調べたことを防災マップにまとめました。防災マップ完成後、ご覧になった方々からの「もっと伝えたい情報をしぼるといいよ」というアドバイスをもとに、一番に伝えたいことは何か考えながら減災ムービーを作成しました。活動を重ねるにつれて、一方的に発信するのではなく、相手が必要としていることは何かと考える姿や相手のことを思うことが共助につながると考える姿も見られました。最後に、これまでの学びの集大成として地域住民に地震への備えの大切さが伝わるプレゼンに挑戦しました。





## 6-1

### 「みなとみらい」の未来を考える～24人の思いをまちへ～

6年1組が考える「みなとみらい」の未来は

まちに住むひと、働いているひと、訪れるひと、大人も子ども「みんなが楽しめるまち」。



さまざまな人と関わることを通して「まち」への思いを高めています。多様な考えと出合うことで迷いながらも、一人ひとりが学びを深め、まちの一員として、みなとみらい本町小学校の代表として24人で活動を創り上げています。

自分たちの思いを形にすること、人に伝えることの難しさを感じ、試行錯誤を重ねました。この経験が日常生活や他教科での学習につながっています。総合的な学習の時間を通して、「自分の思いを伝える」ことの面白さを感じることができました。



## 6-2

### 未来へつなげSDGs!



みなとみらい本町小学校、最初の卒業生。自分たちで学校を創り、自分たちの学校を創っていききたい。そんな思いから学習がスタートしました。学校教育目標にある、「持続可能性」って何のことなのか。

そこから子どもたちはSDGsについて調べ始めました。「環境」、

「人との関わり」、「誰もが幸せ」。そんな学校を創っていくために

6年2組では思いを壁面にしていきたいと考えました。専門家に話を聞いたり各学年の取組をインタビューしたりして、みなとみらい本町小第一期生としてのみなとみらい本町SDG図の作成に臨みました。



## 学校の取り組み



## 人権集会

### 「世界の食料問題」～FAO駐日連絡事務所長 シフリ・チャールズ・ポリコ氏～

12月10日（月）、人権集会において特別講演「世界の食料問題」が開催されました。

「みなさんは、給食を残さず食べていますか？」と突然問題提起され、子どもたちの目が真剣になりました。「世界には十分な食料があるのに、世界全体の9人に1人が十分に食べることができない」という話を聞き、驚いていました。その理由の一つに「食べるために作られた食べ物の3分の1が捨てられている」でした。残飯はもったいないのはもちろんですが、捨てられるとたくさんの温熱効果ガスが出て台風や干ばつ、洪水などを引き起こす原因にもなることもお話しくださいました。講演後の児童代表からの、「自分が幸せであることを実感するとともに、僕は9人に1人の人のことを考えられる自分になりたい」という言葉が印象的でした。

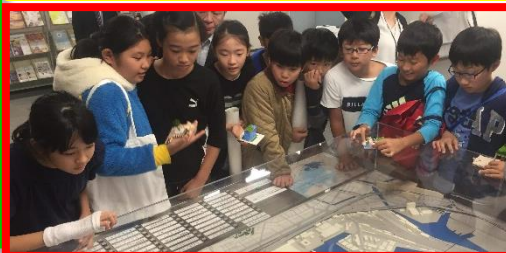


私たちは みんな地球に住んでいる  
地球には たくさんの課題がある  
2030年 地球を支えているのは  
今の子どもたちだ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標





平成31年3月1日 発行  
 横浜市立みなとみらい本町小学校  
 mailto: y3mmhono@edu.city.yokohama.jp

校長：小正 和彦

副校長：松比良聡夫

長谷川裕志  
 広瀬ひろみ  
 日景 皐月  
 平馬 尚  
 堀江加奈子  
 松尾 健一  
 一色 恵  
 田中 雄大

赤津 淳子  
 赤岡 鉄矢  
 高原 洋介  
 杵田 陽花  
 津田 迪加  
 望月 勇太  
 河原 早希  
 中藪 直人

半澤祐美子  
 藤山 貴生  
 青沼 洋子  
 眞木由紀恵  
 林 さよ子  
 木輪 和代  
 黒澤めぐみ

葉山笑美子  
 長安 京子  
 渡辺美由紀  
 矢野美津子  
 鈴木 寿美  
 パトリシア フィッシャー  
 アリサ ビンティ シマツ